

令和2年度

# 学校だより

京都市立醍醐中学校

第12号



学校教育目標「伝統と文化を受け継ぎ、地域に貢献できる

人材の基礎となる資質や能力を育成する」

令和3年3月1日 文責 林

## 「学ぶことの意義」について

今年度を振り返ってみると新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新学年が始まってすぐに休校措置となり休校期間が5月末までと2か月に及びました。6月に授業が再開した後も教育活動が大きく制限されました。そして、学校生活が様変わりしました。「学びを止めない」ことを実践しようとGIGA構想が先取りで進められ、タブレットを生徒の皆さんに1台ずつ準備しました。学びのスタイルも少しずつ変わろうとしています。

ここで「学ぶことの意義」を考えてみようと思います。新聞を読んでいると第二次世界大戦の終戦前後に大学で地質学を学んだ方のノートについての話題が載っていました。戦中や戦後の混乱による物資不足の影響でノートの紙質は悪いのですが、ノートには克明に授業の内容が記されています。ノートのあちらこちらに丁寧な図やグラフも書かれています。授業中に取ったメモを元に、後に書物も参考にして、じっくりと時間をかけて書き直したようです。記事を書いた記者は、ノートを書いた学生の学ぶことへの敬意が強く伝わったと感想を述べています。学ぶ環境が現在と比べて劣悪にもかかわらずきれいなノートを残した学生の学ぶ意欲が感じられます。この記事を読んで学ぶことの意義を再認識しました。学ぶことは、未知のことに触れたり、視野が広がるなど成長を促してくれます。言い換えると学ぶことは楽しいこと、興味あふれることと言えるでしょう。しかし、現在では残念ながら学びから遠ざかってしまうことも見られます。なぜでしょうか。私は、「素早く答えを求める」風潮があるのではと考えます。素早く答えを求めようとする学ぶことに必要な「じっくり考えること」や「他の人と対話して自分の考えと他の人の考えのバランスをとること」などがおろそかになりがちです。ですから、今一度じっくり考え、他の人と対話することで自分とは違った多様な価値観を認めて自分自身の考え方を見直してほしいものです。そして、難しいことですが、自分自身の固定観念に縛られないことが大切と考えます。

なぜ学ぶのか、何のために学ぶのか、自主的に学ぼうとしているか、与えられた問いだけを解こうとしていないか、自分で課題を発見して課題を探究、解決しようとしているか等々。自分自身に問いかけてください。そして、学びについての姿勢や意欲を高めてほしいものです。

## 年度末を迎えて

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。感謝申し上げます。今年度も年度末を迎えました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い教育活動が大きく制限されましたが、生徒は力を合わせて、できることをできる範囲で懸命に努力してくれました。教職員も工夫を重ねてくれました。その結果、授業の遅れを取り戻し、学校祭や修学旅行などの学校行事も実施することができました。また、醍醐寺様のご協力で3学年とも連携授業を行うことができました。来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残ることは避けられそうにありませんが、本校の教育活動をさらに発展させていこうと考えています。引き続き、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(裏面もご覧ください)

## 薬物乱用防止教室

2月18日（木）に3年生は6限に「薬物乱用防止教室」を各教室で行いました。  
プレゼンテーションソフトを使って、薬物の種類、恐ろしさ、周囲や家族・「社会に及ぼす影響について考えました。

「教科の学習も大切だけど、今日の学習も非常に大切な内容だった」などの感想が生徒から出ていました。



## 1年生・2年生学年末考査



2月17日（水）から3日間、1年生・2年生の学年末考査を実施しました。今年度最終の定期考査で1年間のまとめのテストです。生徒の皆さんは、計画をしっかり立ててテストに向けて準備をしてくれました。放課後学習に参加する生徒も多かったです。テストの結果を受けて、できたところとできなかったところを整理して、できなかったところはしっかり復習して、新学年につなげてください。

## 環境委員会 プランターの植え替え

2月5日（金）に1・2年の環境委員が、通用門前プランターの植え替えをしてくれました。見栄え良くするために色合いを考え、苗を配置していました。卒業証書授与式のころには華やかに育っていることでしょう。

寒い中、ありがとうございました。



## 1年生 「テーブルマナー・マスク」制作



2月3日（水）、1年生は4限に「テーブルマナー・マスク」を作りました。

新型コロナウイルス感染防止対策として食事中は「黙食」を実行しています。

「テーブルマナー・マスク」は、食事中の感染リスクを減らすために、嵯峨美術大学学長 佐々木正子先生が考案されたもので、厚紙で持ち手と枠を作成し、ひもを切り取った市販の不織布マスクを取り付けるもので、食事をするさいなどに口元に当てて使用します。

厚紙の部分にメッセージや絵を描いていました。

学校用と家庭用に二枚作成したので家庭でも活用してください。